

平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）
標準的な健診・保健指導プログラム（改訂版）及び健康づくりのための身体活動基準2013に基づく保健事
業の研修手法と評価に関する研究

平成 25 年度総括分担研究報告書
アルコールに関する指導者教育と評価研究に関する研究

研究分担者 真栄里 仁 国立病院機構久里浜医療センター教育情報部長
研究協力者 堀江義則 財団法人順和会山王病院
樋口 進 国立病院機構久里浜医療センター

研究要旨

アルコールの健康障害への影響は喫煙等と並び大きな問題となっている一方で、生活習慣病領域におけるアルコール指導については、充分行われておらず、指導の参考となるスライド等の資料も充分ではない。このような背景を踏まえ、本研究では今年度から向こう3年間で以下のような研究を実施する。今年度は、市町村における特定保健指導での減酒指導について実態調査を行い、次年度以降、現状とその要因、問題点などについて明らかにする。また現場での特定保健指導に資することを目的にアルコール領域の標準的なスライドを作成した。次年度以降は、アルコールに特化した指導向けの、より詳細なスライドを作成するとともに、パンフレット等の様々な指導ツールについても開発を進めていく。

A. 研究目的

WHOの推計では、アルコールの健康への影響は、高血圧や喫煙に匹敵するものであり、日本でも平成25年にはアルコール健康障害対策基本法が制定されるなど、幅広いアルコール対策が求められている。特に生活習慣病領域では、健康日本21(第一次)のなかで生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合の減少、未成年者の飲酒をなくす、妊娠中の飲酒をなくす、の3つの数値目標を掲げたものの、達成項目がなかったように、飲酒に関する行動変容には困難を伴う。そのため、今回の研究では、特定保健指導に関する保健・医療分野での人材育成のための実際的な教材作成を行い、生活習慣病領域での減酒指導に資することを目的としている。

B. 研究方法

平成25年度は、特定健診・保健指導研修会での節酒に関する領域でのコアスライドを作成することになり、内科と事前に協議したうえで、内容

を決定した。スライドは、飲酒が関連するメタボリックシンドロームなどの生活習慣病に関する部分と、具体的な減酒方法に関する部分から成り、非専門家による医師、保健師や管理栄養士等への講義を想定して、平易な内容とした。また、並行して生活習慣病対策での節酒指導等、について、各自治体向けに郵送でアンケート調査を行った。

次年度は、アンケート調査の集計と解析を行うとともに、調査結果を参考にして、被保険者に配布するためのアルコールと生活習慣病、減酒に関する簡便なパンフレット（B5数ページ程度）を作成し、PDF化し、関係諸機関ホームページからダウンロードできるようにする。また、アルコールに特化した特定保健指導のモデルとなる45分程度のスライドの作成も予定している。

以下に本年度の研究方法の詳細について記す。

1. コアスライド作成

本スライドは、特定保健指導でのアルコール問題の理解、ならびに減酒指導に焦点を当てたスライドを作成した。

1) 対象と目的

保険者を対象とした一般の特定保健指導で用いられる標準的なスライド用のアルコール分野スライドの作成。

2) 内容

- ・ Jカーブ
- ・ 節度ある適度な飲酒、リスクのある飲酒の目安
- ・ AUDITのやり方
- ・ 飲酒日記と目標設定、等

2. 市町村での特定保健指導における飲酒に関する指導についての実態調査

1) 調査対象

全国市町村(1742)の特定健診・特定保健指導業務担当部署

2) 調査方法

郵送で全国の自治体へアンケートを送付し、平成25年3月末までの返信を依頼している。回収された調査票は、次年度以降、久里浜医療センターでPCへのデータ入力を行い、解析を行う予定である。

3) 調査票

郵送による自記式調査(添付資料)

a) 調査内容

- ・ 自治体種別・人口規模、保健指導体制
- ・ 特定保健指導での減酒指導の有無と頻度、指導のための資料
- ・ 指導上の問題点
- ・ 精神保健分野でのアルコール指導の有無と頻度
- ・ アルコール関連問題の語句の理解度

(倫理に対する配慮)

上記調査のうち、「市町村での特定保健指導における飲酒に関する指導についての実態調査」については倫理的配慮が必要である。この研究に関しては、久里浜医療センター倫理審査委員会で審査を行い、承認を得ている。

D. 結果と考察

本年度作成したスライドについては、主任研究者の報告書を作成していただきたい。

市町村への調査は現在、発送作業中であり、結

果は次年度に報告を予定している。

E. 参考文献

1) 樋口 進, 杠 岳文, 松下幸生, 宮川朋大, 幸地芳朗, 加藤元一郎, 洲脇 寛. アルコール依存症の実態把握および治療の有効性評価・標準化に関する研究. 厚生労働省精神・神経疾患委託研究費「薬物依存症・アルコール依存症・中毒性精神病治療の開発・有効性評価・標準化に関する研究, 主任研究者和田清」平成16年~18年度総括研究報告書.

2) 健康日本21推進のためのアルコール保健指導マニュアル, アルコール保健指導マニュアル研究会, 社会保険研究所, 東京, 2003.

F. 健康危険情報

報告すべきものなし。

G. 研究発表

1) 国内

口頭発表	0件
原著論文による発表	0件
それ以外の発表	0件

2) 海外

口頭発表	0件
原著論文による発表	0件
それ以外の発表	0件

H. 知的所有権の出願・取得状況(予定を含む。)

1. 特許取得： なし
2. 実用新案登録： なし
3. その他： なし

特定保健指導における飲酒に関する指導についてのアンケート

1. 貴自治体名（例 1：神奈川県横須賀市、例 2：東京都世田谷区）

2. 直近の人口（例：412,739）： _____ 人

3. 保健師人数（いわゆる市町村区保健師を指しています）： _____ 名

4. 市町村区での国民健康保険加入者への特定健診・特定保健指導の実施方法についてより近いものを 1 つ選んで下さい。

1. 特定健診・特定保健指導共に、主に市町村区で行っている。
2. 特定健診は主に医師会等の外部機関に委託しているが、特定保健指導は主に市町村区で行っている。
3. 特定保健指導は主に医師会等の外部機関に委託しているが、特定健診は主に市町村区が行っている。
4. 特定保健指導・特定健診共に、主に医師会等の外部機関に委託している。

5. 特定保健指導での飲酒に関する指導について、より近いものを 1 つ選んで下さい。
なお設問 4～7 については、アルコール依存症への断酒指導や受診勧告などは含めないでください。

選択肢 1.(= まったく、あるいは殆ど行っていない) を選んだ場合、設問 6～8 は省略し設問 9 以降の質問にお答えください。それ以外の選択肢を選んだ場合、設問 6 以降のすべての質問にお答えください。

1. まったく、あるいは殆ど行っていない
2. 保健師一人あたり年 1~2 件程度は行っている。
3. 保健師一人あたり月 1-2 件程度は行っている。
4. 保健師一人あたり毎月数件以上行っている。

6. 特定保健指導の一環として、飲酒に関する指導を行っている場合、指導方法について該当するものを選んで下さい（複数回答可）。

1. 各種講習・講演
2. 面接による個別の節酒指導
3. E-mail 等の IT を利用した個別の節酒指導

4. KAST や AUDIT などの飲酒問題のスクリーニングテスト
5. 医療機関受診の勧め
6. その他（下記に自由にご記載ください）

7. 特定保健指導のなかで、飲酒に関する指導で困ることはなんですか。該当するものを選んで下さい（複数回答可）

1. 困ることはない。
2. 指導に関し拒否的な態度が多い。
3. 効果が得られない。効果の実感がない。
4. どのように指導して良いかわからない。
5. その他（下記に自由にご記載ください）

8. 飲酒の指導に使用している教材等がありましたら、該当するものを選んで下さい（複数回答可）

1. アルコールパッチテスト
2. 飲酒日記
3. 厚生労働省などの情報
4. インターネットの情報
5. ASK（アルコール薬物問題市民協会）久里浜医療センターなどの出版物
6. その他（下記に自由にご記載ください）

9. 精神保健分野（アルコール依存症対策など）での飲酒に関する指導について、より近いものを1つ選んで下さい。

1. まったく、あるいは殆ど行っていない。
2. 保健師一人あたり年1~2件程度は行っている。
3. 保健師一人あたり月1-2件程度は行っている。
4. 保健師一人あたり毎月数件以上行っている。

10. 下記の語句について、ご自身の理解度・習熟度を選択してください。

a. AUDIT

(1. 知らない 2. 聞いたことはあるがよく知らない 3. 内容を理解している 4. 指導において活用している)

b. 生活習慣病のリスクを高める飲酒量

(1. 知らない 2. 聞いたことはあるがよく知らない 3. 内容を理解している 4. 指導において活用している)

c. 節度ある適度な飲酒

(1. 知らない 2. 聞いたことはあるがよく知らない 3. 内容を理解している 4. 指導において活用している)

d. 飲酒日記

(1. 知らない 2. 聞いたことはあるがよく知らない 3. 内容を理解している 4. 指導において活用している)

ご協力ありがとうございました。この調査票を同封の封筒に入れてポストへ投函お願いします。ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

【連絡先】

独立行政法人 国立病院機構久里浜医療センター

教育情報部 真栄里 仁(まえさと ひとし)

mail: maesatohitoshi@kurihama1.hosp.go.jp

電話: 046-848-1550

FAX: 046-849-7743